

## 衛星リモートセンシングによるシベリアにおける近年の植生変動の徴候

## Recent Signal of Vegetation Change in Siberia Using Satellite Data

# 酒井 秀孝 [1]; 鈴木 力英 [2]; 近藤 昭彦 [3]  
# Hidetaka Sakai[1]; Rikie Suzuki[2]; Akihiko Kondoh[3]

[1] 千葉大・院・生命地球; [2] JAMSTEC・地球フロンティア; [3] 千葉大・環境リモセン  
[1] Life and Earth Sci., Chiba Univ.; [2] FRCGC, JAMSTEC; [3] CEReS, Chiba Univ.

<http://dbx.cr.chiba-u.jp/>

気候変動に対する植生の応答を明らかにするためには、エコトーン（植生帯の遷移地帯）に着目するのがよい。そこで、本研究では東シベリアのエコトーンに対応する地域を対象として1982～2000年の19年間における衛星計測による植生指数の経年変化を年積算値（NDVI）と各年の最大値（MaxNDVI）の二つの指標について求めた。

その結果、従来からの指摘にあるように北方林分布域においてNDVIの増加域が認められる一方で、北方林分布域の北側、すなわちツンドラと北方林のエコトーンにおいてMaxNDVIの増加域が発見された。これはまだ報告されていない新しい植生変動のシグナルである。

この地域について積雪および気温データを用いて同期間の変動を解析したところ、消雪時期の早期化、春期と夏期の気温の増加傾向が認められた。このことからMaxNDVIの増加域は地球温暖化に伴う植生の応答である可能性が高いと考えられる。